みらいだより

令和６年２月１日

社会福祉法人 みどり会
みどりの森 みらいこども園
園長　　中川　宏美

一年で一番寒い時季ですが、暦の上では立春を迎えます。「鬼に投げる豆、いっぱい作ったよ」「イワシ、買ってきたよ」とそら組。「鬼の準備できたよ。みんなにはナイショだよ」「私は福の神になるの。かわいいから」とひかり組。子ども主体の節分も４年目を迎えます。ひとつひとつの行事を自分事としてとらえ、子どもたちは、いきいきしています。「鬼はそと、福はうち」子どもの気持ちは、盛り上がっています。

２　月		
日	曜	行　事　予　定
2	金	節分会
3	土	お弁当の日
6	火	子ども医療秘書専門学校 保育発表会（うさぎ・そら・ひかり） アステールプラザ ※雨天の場合（ひかり）のみ参加
7	水	リズム会全体リハーサル
13	火	身体測定（どんぐり・ひかり）
14	水	身体測定（たけのこ・そら）
15	木	身体測定（りす・うさぎ）
17	土	リズム会（たけのこ・りす・うさぎ そら・ひかり） お弁当の日
20	火	観音小学校見学（ひかり）
		※変更の場合あり

子どもの「遊び」

「遊び」という行為は、年齢を重ねるごとに一人遊びから集団の遊びへ変化していきます。

雪を一生懸命に手で掴もうとしますが溶けていきます。氷を触り手に持って冷たい、溶けていく様子を不思議に感じ、友だちと不思議を共感します。

乳幼児期に経験した全ての「遊び」は「学びの芽生え」から「主体な学び」へと繋がる大切なものです。

子どもたちが実際に触れるものや見えるもの、感じるすべてのものが将来の生きていく力に繋がっていくと考えています。子どもたちの「やってみたい」を大切に、遊びの環境を保障しています。

自己抑制（自己調整力）　「我慢する力はどのようにして育まれるのでしょうか？」

我慢する力＝自分の感情をコントロール力

大切なのは、自分の気持ちを自分でコントロールできるようになることです。子どもの「いやだ」「〇〇したかった」「〇〇だったのに」など、子どもの思いに保育者は、

① 気持ちを切り替える選択肢を出して、自分で自分の気持ちを切り替えるきっかけをつくる。
② 子どもの気持ちに共感して、子どもが自分で決める機会を与える。
③ 大人の思いも伝えておく。

毎日の生活の中で、子どもが自分で自分の気持ちを切り替えることができるように、お手伝いしてあげることが大切です。思いを丁寧に受け止めてもらえることが子どもには大切で、その時にうまく気持ちがおさめられなくてもいいと思います。長期的にみれば、そこで自分の気持ちをわかってもらえる大人がいることが大切です。「まっ、いいか」くらいのおおらかな気持ちで見守ってもらった子の心は強くてしなやかで、自分の感情をコントロールする力が育まれていると感じます。

参考文献「非認知能力を育てる」大豆生田啓友・大豆生田千夏

１月　ドキュメンテーションから

どんぐり組（0 歳児）：「おにいちゃんと一緒に」
お兄ちゃんたちの川づくりを、じっとみていました。お兄ちゃんにスコップを渡してもらうと同じように砂を掘っていました。掘った川に水が流れると、立ち上がってお兄ちゃんに指さしで伝えています。「自分もやりたい」と興味を持っていっしょにあそび、コミュニケーションや社会性を育んでいきます。

たけのこ組（1 歳児）：「よいしょ、おもたいよう」
保育者がマットを運ぶ姿をいつも見ていて、「いっしょにもつの！」とお手伝いします。「れおくん、もってよー」「おもいおもい」とマットを運びながら、自分が感じたことをことばにします。
まわりのことに関心を持って、だれかのために自分も役に立とうとする気持ちが自己肯定感を育みます。

りす組（2 歳児）：「かるたであそぼう」
読み札をよく聞いて、絵札を探します。「はい」「わたし、とったよ」「あー！とられた」と、嬉しい、悔しい気持ちを感じながらかるたを楽しんでいます。最後に絵札の枚数を数えます。虫の名前を覚え、集中力・反射神経・数への興味が育っていきます。友だちとのコミュニケーションも豊かになり、ルールのある遊びを楽しんでいます。

うさぎ組（3歳児）：「まわった～！」
「すごい、はやくまわる」「まだまわっとる」「どうやったらまわるんだろう」友だちのこまをみて、「自分も」と意欲が高まり、速く回るこまを覗き込みながら回転の仕組みや力加減の調整を考えます。こまの形・重さ・素材を見極め、よく回りそうなこまを選び、思考錯誤しながら繰り返し挑戦していました。

そら組（4 歳児）：「こおり実験」
昨日準備した水が翌朝…「氷できとるよ！！」「丸いのできた」「これ大きいよ！」「冷たいね」と氷の大きさの違いやさわって気づいたことをみんなで話しています。ルーペで氷を観ると「なんか白く見えるね」「キラキラしとる」と氷の結晶に驚き、観察することにどんどん夢中になっていきました。

ひかり組（5 歳児）：「ここ、気をつけて！」
鬼ヶ城のてっぺんを目指して、大きな段差や凹凸、足もとに気を配りながら、登り下りの多い斜面を力強く歩いていきます。山道は真っ直ぐではないので、前を行く人が後ろの人に道の様子を伝えます。大きな段差がある時は、友だちに手を差しのべます。自然と助け合う姿に強い仲間意識を感じました。